

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長

農作物病害虫発生予察予報の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。



連絡先 福井県農業試験場病害虫防除室  
TEL 0776-54-9315  
FAX 0776-54-5106  
E-mail byogaichu-boujo@pref.fukui.lg.jp



福井県病害虫防除室  検索

令和8年農作物病害虫発生予察予報第5号

7月の気象概況

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温は、高い確率60%です。

【水稲関係】

病害虫名 葉いもち

1 予報内容

発生時期：進展期は7月3半旬、発病最盛期は7月下旬  
被害程度：少発、ただし山間、山沿い、常発地では中発  
発生量：平年、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) これまで本病対象に防除が行われていない場合、散布剤は、全般発生開始期から1週間以内に散布する。時期が遅れると防除効果が劣るので留意する。
- (2) 薬剤散布後でも、上位葉に新たな病斑が見られた場合、散布7~10日後に追加防除を行う。また、育苗箱粒剤などや水面施用剤を施用した圃場でも、病斑の発生が認められる場合、追加防除を行う。
- (3) 降雨が続く場合は、雨のやみ間を見て、雨のやみ間がない時は小雨の時にでも薬剤を散布し、防除が遅れないように努める。
- (4) 直播栽培、晩生品種等熟期の遅い作型では、葉いもちの発生が多くなる恐れがあるので、的確に防除を行う。
- (5) 葉いもちが多発している圃場では、穂肥の施用を控えめにする。

病害虫名 穂いもち

1 予報内容

発生時期：初発期 早生穂いもち7月4半旬頃  
被害程度：少発  
発生量：平年より少なく、前年よりやや多い

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 出穂直前と穂揃直後の2回、粉剤または液剤で防除する。特に、葉いもちが発生している圃場では、葉いもち病斑から穂への感染を防ぐために出穂直前の防除は必ず行う。
- (2) 出穂直前の低温により出穂がばらつく場合や、穂揃期以降に降雨が続くなど多発が予想される場合は、傾穂期に粉剤または液剤で追加防除を行う。
- (3) 防除時期に降雨が続く場合は、雨のやみ間をみて、適期に防除を行う。

- (4) 穂いもちの予防剤は、薬剤によって施用時期が異なるので注意する。葉いもちの見られる水田では、粒剤は施用せず、出穂期に粉剤または液剤で防除する。また、粒剤を施用した水田でも多発が予想される場合には、出穂期に粉剤または液剤で防除する。

#### 病害虫名 紋枯病

##### 1 予報内容

発生時期：垂直進展初期は平年並みの早生7月3半旬、中晩生7月5半旬

被害程度：少発、局中発

発生量：平年よりやや多く、前年より多い

##### 2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 散布剤による防除を行う場合、8月上旬までに出穂する圃場では、穂ばらみ期に薬剤を散布する。穂ばらみ期の発生株率が、早生では10%以上、中生では20%以上ならば防除が必要である。しかし、倒伏すると進展しやすいので、倒伏が予想される場合は基準に達していなくても防除する。
- (2) 8月中旬以降に出穂する圃場で、発生が多い場合は、7月下旬に薬剤を散布する。
- (3) 粒剤を散布した圃場でも、多発生が予想される場合には、茎葉散布剤による防除を行う。また、穂ばらみ期に防除を行った圃場でも、降雨が続き多発生が予想される場合は穂揃期に追加防除を行う。
- (4) 散布時には、薬剤が株元の病斑によく付着するように散布する。

#### 病害虫名 白葉枯病

##### 1 予報内容

被害程度：局微発

発生量：平年、前年並み

##### 2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 常発地では穂いもちの防除を兼ねて、出穂3～4週間前に粒剤を散布する。
- (2) 窒素質肥料の過用を避ける。
- (3) 畦畔や水路の雑草を除去する。

#### 病害虫名 斑点米カメムシ類

##### 1 予報内容

発生時期：加害最盛期は7月3～4半旬

被害程度：少発、局中発

発生量：平年より多く、前年よりやや多い

##### 2 防除対策および防除上の注意点

- (1) カスミカメムシ類の幼虫の発生時期にあたる7月上旬までに、畦畔や水田周辺の雑草地等の草刈りを徹底し、増殖を抑える。ただし、出穂期頃の草刈りはカメムシ類の水田内への侵入を助長するので行わない。
- (2) 水田内の雑草は、カメムシ類の水田内への侵入を助長するので除草を徹底する。
- (3) オオムギ跡等の雑草地では、斑点米カメムシ類が繁殖しているため、7月上旬までに草刈り等を行うとともに、隣接している水田では、出穂期以降の防除を徹底する。
- (4) 今年は早生の出穂が平年より早まることが予想されるので、生育ステージの確認を行い適期防除を徹底する。併せて、今後幼穂形成期に入ると見られる中晩生以降においても、生育ステージの確認を行い適期防除を徹底する。
- (5) 農薬の散布にあたっては、周辺居住者等への事前周知および飛散防止に努める。

##### 《粉・液剤での防除》

- (1) 穂揃期～乳熟期(出穂3～5日後頃)と糊熟初期(出穂10～14日後頃)の2回薬剤散布を行う。
- (2) 斑点米カメムシ類は、日中はあまり活動しないため、夕方か早朝に薬剤散布を行う。

##### 《粒剤での防除》

- (1) 粒剤での防除は、薬剤によって散布時期が異なるので注意する。
- (2) 散布時は水深3cm程度の湛水状態とし、3～4日湛水した後、自然落水する。
- (3) 発生量が多い地域では、粒剤散布7日後頃に粉剤等による追加防除を行う。

## 病害虫名 ニカメイガ

### 1 予報内容

発生時期：第1世代成虫発生最盛期は平年より早い7月3半旬頃

第2世代幼虫加害初期は平年より早い7月4半旬頃

被害程度：少発、局中発

発生量：平年より少なく、前年よりやや多い

### 2 防除対策および防除上の注意点

(1) 粉剤・液剤の場合は7月3～4半旬頃、粒剤の場合は7月3半旬頃に防除を行う。

(2) 前年発生が多かった圃場および周辺の窒素過多圃場、直播栽培等熟期の遅い作型、もち品種圃場等で多発生し、圃場の広い範囲で白穂や倒伏等の被害が出る場合があるので、圃場を定期的に観察して、防除が適期に行われるように注意する。

(3) 福井北部や坂井地区などの1化期で発生が多い地域では、発生が広がっている場合があるので、発生状況を観察し、必要に応じ防除する。

## 病害虫名 ツマグロヨコバイ

### 1 予報内容

発生時期：発生初期は7月4半旬頃

被害程度：少発

発生量：平年より多く、前年並み

### 2 防除対策および防除上の注意点

(1) 薬剤は株元によくかかるように散布する。

## 病害虫名 セジロウンカ

### 1 予報内容

発生時期：加害初期は7月3半旬頃

被害程度：少発、局中発

発生量：平年、前年並み

### 2 防除対策および防除上の注意点

(1) 7月中旬に1株当たり成虫が4頭以上、7月下旬～8月上旬に1株当たり幼虫が30～40頭以上の場合は防除する。

## 病害虫名 イネアオムシ（フタオビコヤガ）

### 1 予報内容

発生時期：第2世代幼虫加害初期は7月4半旬頃

被害程度：少発、局中発

発生量：平年より少なく、前年並み

### 2 防除対策および防除上の注意点

(1) 過繁茂のイネや遅植、直播田に多発しやすいので発生状況を観察し、必要に応じ防除する。

(2) 山間地など風通しの悪い地域では多発しやすいので、防除が遅れないようにする。

## 病害虫名 イネツトムシ（イチモンジセセリ）

### 1 予報内容

発生時期：第2世代幼虫加害最盛期は7月4半旬頃

被害程度：少発、局中発

発生量：平年より少なく、前年並み

### 2 防除対策および防除上の注意点

(1) 直播栽培において7月下旬の若齢幼虫数で1㎡あたり4.4頭以上の場合は防除する。

(2) 葉色の濃いイネや遅植、直播田に多発しやすいので発生状況を観察し、必要に応じ防除する。

【ダイズ関係】

病害虫名 ウコンノメイガ

1 予報内容

発生時期：第2世代幼虫加害初期は7月5半旬

被害程度：少発、局中発

発生量：平年より少なく、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 葉の巻き始める若齢幼虫期の防除効果が高いので、適期に防除する。

(2) 山沿いの圃場での発生が多くなる。

(3) 葉色が濃く生育旺盛な圃場で被害を受けやすいので、発生状況を観察し必要に応じ防除する。

【野菜関係】

野菜名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発生量	
スイカ	炭疽病	最盛期： 7月中旬	少 発	平年：やや少 前年：やや多	1)圃場排水に努める。 2)過繁茂を避け、通風をよくする。 3)被害葉を除去し、圃場外で処分する。 4)同一系統薬剤の連用は避ける。
	つる枯病	最盛期： 7月中旬	少 発 (局中発)	平年：並み 前年：やや多	1)圃場排水に努める。 2)過繁茂を避け、通風をよくする。 3)被害葉を除去し、圃場外で処分する。 4)同一系統薬剤の連用は避ける。
	疫 病	最盛期： 7月下旬	少 発	平年：並み 前年：やや多	1)圃場排水に努める。 2)過繁茂を避け、通風をよくする。 3)同一系統薬剤の連用は避ける。
キュウリ	うどんこ病	最盛期： 7月上旬	中 発	平年：やや多 前年：多	1)多肥栽培を行わず、適正な施肥管理を行う。 2)被害葉を除去し、圃場外で処分する。 3)同一系統薬剤の連用は避ける。
	バ と 病	最盛期： 7月中旬	少 発	平年：少 前年：やや多	1)圃場排水に努める。 2)通風、採光をよくし、過湿を避ける。 3)肥料切れしないよう、適正な施肥管理を行う。 4)被害葉を除去し、圃場外で処分する。 5)同一系統薬剤の連用は避ける。
ネギ	さび病		少 発	平年：少 前年：並み	1)適正施肥に努め、草勢を良好にする。 2)同一系統薬剤の連用は避ける。 3)薬剤防除の際には、展着剤を加用し、葉全体に薬液が付着するようにする。
全 般	アブラムシ類		少 発 (局中発)	平年：やや多 前年：並み	1)同一系統薬剤の連用は避ける。
	ハダニ類		少 発 (局中発)	平年：並み 前年：やや多	1)同一系統薬剤の連用は避ける。
	アザミウマ類		少 発 (局中発)	平年：やや多 前年：並み	1)同一系統薬剤の連用は避ける。

【果樹関係】

果樹名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発生量	
ナ シ	黒星病		少 発	平年：並み 前年：やや多	1)発病部位は除去し、園外で埋却等適切に処理する。 2)枝が込み合っている場合は剪定し、風通しを良くする。 3)同一系統薬剤の連用は避ける。
	黒斑病		少 発	平年：並み 前年：並み	1)発病部位は除去し、園外で埋却等適切に処理する。 2)同一系統薬剤の連用は避ける。
	ハダニ類	加害初期： 7月上旬	少 発 (局中発)	平年：並み 前年：並み	1)発生を確認したら早めに防除する。 2)同一系統薬剤の連用は避ける。
ナ シ カ キ	カメムシ類	加害盛期： 7月下旬	少 発 (局中発)	平年：やや多 前年：やや多	1)局地的に被害を及ぼすことがあるので、成虫の飛来を確認したら早めに防除する。 2)山林に近い園地で、多い傾向がある。 3)有袋栽培でも、袋上から吸汁されることがあるので、注意する。 4)夜行性のため、夕方の防除が効果的である。 4)同一系統薬剤の連用は避ける。
カ キ	アメリカシロヒトリ (第1世代)	加害盛期： 7月上旬	少 発 (局中発)	平年：並み 前年：並み	1)発生を確認したら早めに防除する。

【花き関係】

花き名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発生量	
キ ク	白さび病		少 発	平年：並み 前年：並み	1)罹病株が周辺への伝染源となるので、抜き取り処分する。 2)日当たり、風通しを良くする。 3)同一系統薬剤の連用を避ける。
	アブラムシ類		少 発 (局中発)	平年：やや多 前年：やや多	1)圃場周辺の除草に努める。 2)同一系統薬剤の連用を避ける。
	ハダニ類		少 発 (局中発)	平年：やや少 前年：並み	1)圃場周辺の除草に努める。 2)同一系統薬剤の連用を避ける。 3)葉裏にも薬剤がかかるように散布する。
	アザミウマ類		少 発 (局中発)	平年：並み 前年：やや多	1)圃場周辺の除草に努める。 2)同一系統薬剤の連用を避ける。 3)つぼみの膜切れ前に防除をする。
	オオタバコガ	幼虫加害 初期： 7月上旬	少 発	平年：並み 前年：並み	1)同一系統薬剤の連用を避ける。 2)若齢幼虫期までに防除を徹底する。